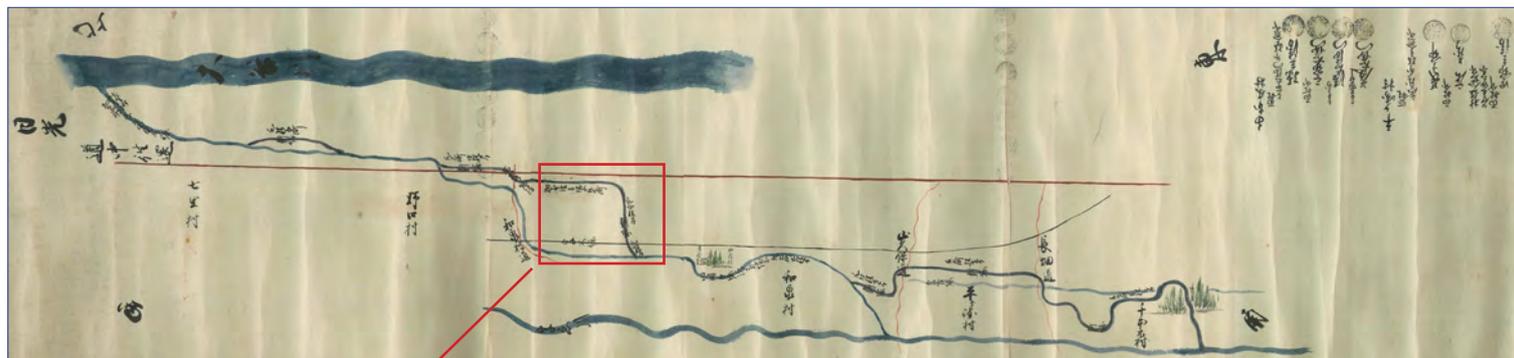


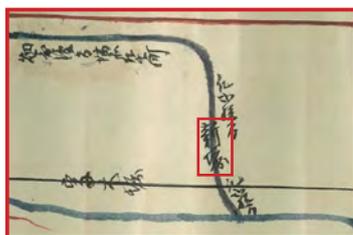
知ってる？二宮堀

～金次郎と地域の人びとがつくった用水路～

日光市二宮尊徳記念館



今市小学校旧蔵文書（当館蔵）



この絵図は、大谷川から取水した水が和泉村・平ヶ崎村・千本木村を通過して田川に流れ込んでいる様子が描かれています。絵図の中には、「新堀」と書かれているところがあります。この「新堀」と書かれている部分が、嘉永7年（1854）につくられた部分です。よく見ると青と濃い青の2色で用水路が描き分けられています。濃い青が「新堀」です。この絵図からは、金次郎たちの工事によりできた用水路と金次郎たちが来る以前からあった用水路の場所がわかります。

知ってる？二宮堀

二宮堀とは
にのみやぼり

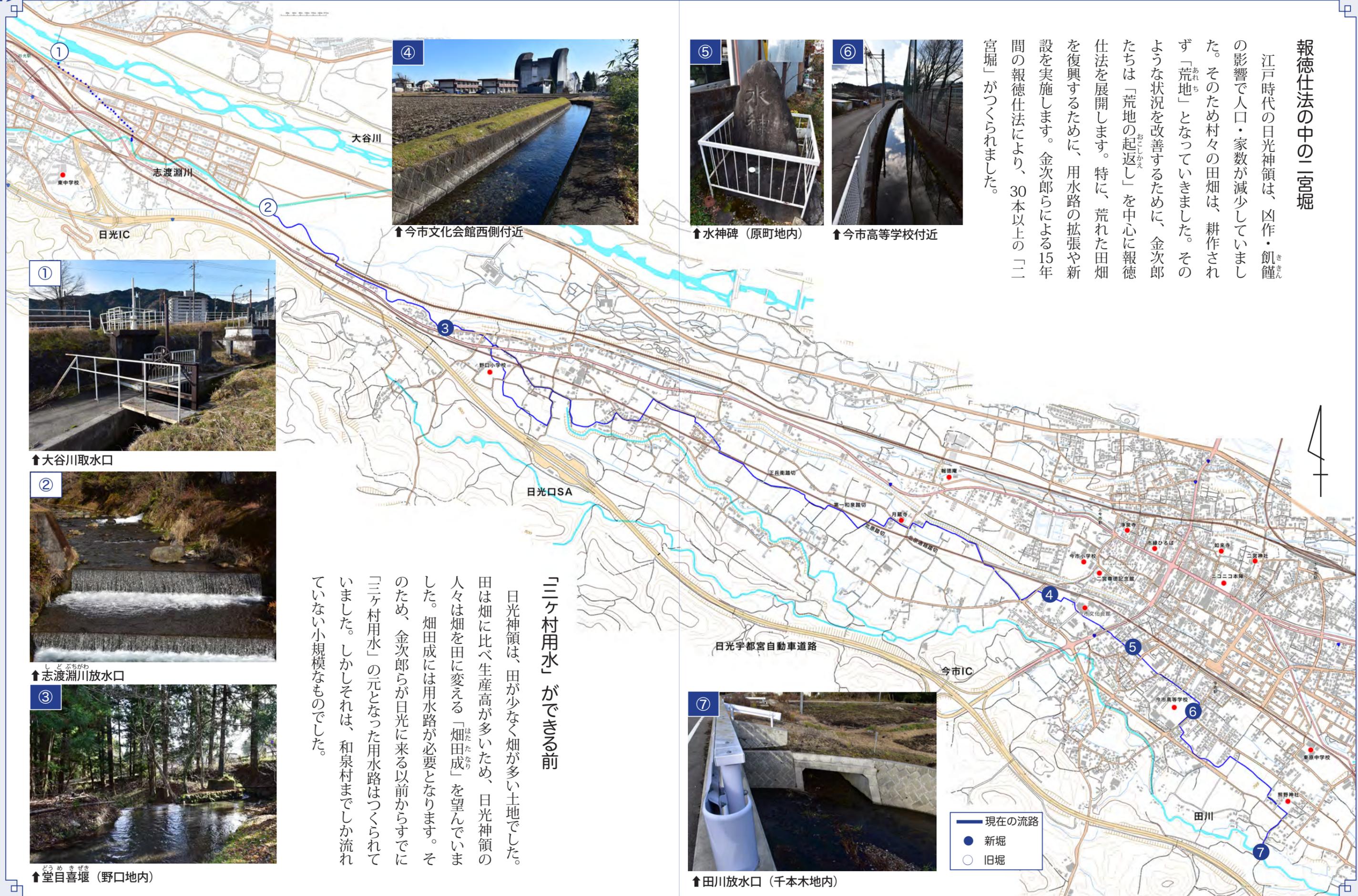
江戸時代の終わり頃に活躍した二宮金次郎や息子の弥太郎らが携わった用水路を「二宮堀」と呼んでいます。また、「二宮堀」は、現在の日光市域で二宮金次郎親子の事績を目で見て知ることが出来るものの一つです。その中には、現在も用水路として使われているものもあります。

今回は、「二宮堀」の中から和泉・平ヶ崎・千本木の「三ヶ村用水」を取り上げます。「三ヶ村用水」は、今から165年前の嘉永7年（1854）につくられました。「三ヶ村用水」は、日光神領の報徳仕法の中で最初の大工事であり、金次郎らの報徳仕法の信頼を高めたものとして位置づけられています。

「二宮堀ってなんのために、どんなふうにつくられたの？」知っているようで知らない「二宮堀」について掘り下げてご紹介します。

報徳仕法の中の二宮堀

江戸時代の日光神領は、凶作・飢饉の影響で人口・家数が減少していました。そのため村々の田畑は、耕作されず「荒地」となっていました。そのような状況を改善するために、金次郎たちは「荒地の起返し」を中心に報徳仕法を展開します。特に、荒れた田畑を復興するために、用水路の拡張や新設を実施します。金次郎らによる15年間の報徳仕法により、30本以上の「二宮堀」がつけられました。



「三ヶ村用水」ができる前

日光神領は、田が少なく畑が多い土地でした。田は畑に比べ生産高が多いため、日光神領の人々は畑を田に変える「畑田成」を望んでいました。畑田成には用水路が必要となります。そのため、金次郎らが日光に来る以前からすでに「三ヶ村用水」の元となった用水路はつくられていました。しかしそれは、和泉村までしか流れていない小規模なものでした。



↑大谷川取水口



↑志渡淵川放水口



↑堂目喜堰（野口地内）



↑今市文化会館西側付近



↑水神碑（原町地内）



↑今市高等学校付近



↑田川放水口（千本木地内）

工事着工までの準備（下流域との調整）

「三ヶ村用水」に反対する村々

弥太郎は、病気の金次郎に代わり和泉・平ヶ崎・千本木三ヶ村の用水路の拡張と、和泉村から先の新設を日光奉行所から依頼されます。しかし、工事はなかなか進みませんでした。大谷川下流の村が、工事の反対をしたためです。「自分たちが使う大谷川の水が減ってしまう」と下流の村は心配していました。この問題は、日光奉行所の役人が反対している村を三日三晩かけて調整したことで解決しました。

水神碑碑文

嘉永七甲寅歳六月十四日
日光御目代 町田孫四郎
吟味役 小野善助
御取納方 野中金平
全 武木鉄蔵
日光ヨリ田用水 和泉村
発 石原源吾
平ヶ崎村 手塚庄右衛門
千本木村 吉原仙吉
起 栗城照敬書（印）



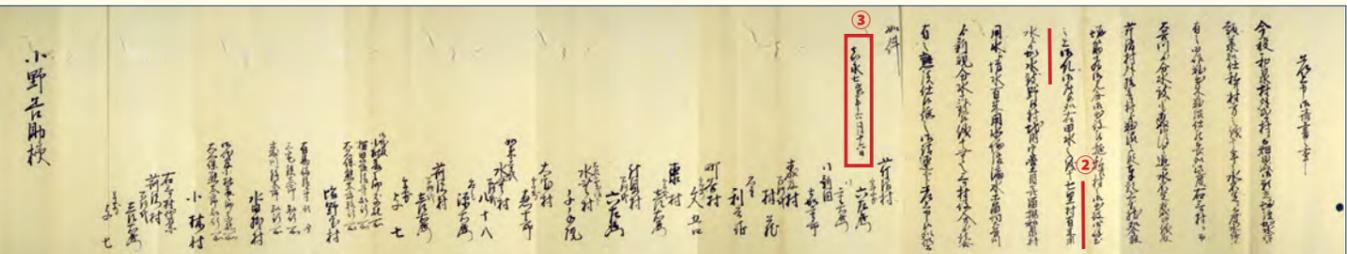
↑水神碑複製（当館蔵）
この水神碑は、下流12ヶ村との調整が済んだことを記念して建てられました。調整に当たった日光奉行所の小野善助の他、三ヶ村の「世話人」などの名前が刻まれています。6月14日という日付は、小野善助たちが12ヶ村の調整を開始した日付です。現在水神碑は、「二宮堀付水神碑」として日光市指定文化財に登録され、原町にあります。

町谷渡辺家文書【町谷村名主文書】（当館蔵）

上：大谷川下流に位置する芹沼・芹沼新田・町谷・轟・針貝・大室・森友・水無・荊沢・塩野室・沓掛・小林の12ヶ村が「三ヶ村用水」の工事に反対していることが書かれています。普段から水不足により難渋していること、大谷川から新たな分水に反対することについて書かれています。
下：「三ヶ村用水」は大谷川から新たに取水はせず、七里村に元からある用水から水を加えること、12ヶ村が納得したことが書かれています。6月16日という日付は、三日三晩の調整が終わった日付です。



①大谷川より分水増之儀、無御座候様
大谷川から（三ヶ村へ）分水して増やすことは、無いように（してください）



②七里村有来用水より加水致
七里村に元からある用水より（三ヶ村用水）に水を加える。
③嘉永七寅年六月十六日
小野善助らによる三日三晩の説得直後の日付。

工事の工程と現場の実態

「三ヶ村用水」の工事内容

「三ヶ村用水」は、嘉永7年（1854）閏7月5日から閏7月27日まで、3日間の休暇を入れて20日間で工事が終了しています。「三ヶ村用水」は、野口村の堂目喜堰から千本木村の田川放水口までの約6.3km（3478.5間）あります。工事には、「破畑人足」といわれる土木工事を専門にする人々のほかに、三ヶ村や野口村の村人たちも人足として多数参加しました。20日間の工事で延べ1046人（実数としては150人前後）が参加しました。

まずは、和泉村まで元々あった用水路の拡張・新設を行い、その後、平ヶ崎村・千本木村に新しい用水路をつくりました。工事にかかった費用は、48両余です。内訳は人足たちの賃金に36両余、道具代や食料代に11両余かかりました。これらの費用は金次郎の報徳役所が全額を負担しました。

三ヶ村用水の関係年表

西暦（和暦）	日付	三ヶ村用水関係の主な出来事
1825（文政8）	3月26日	和泉村まで用水路がつくられ、畑田成が行なわれる。
1854（嘉永7）	4月3日	弥太郎ら東郷陣屋から日光に到着。（この時すでに三ヶ村は、日光奉行所に畑田成を頼り出ており、弥太郎らが引き受ける）
	4月7日	弥太郎らによる普請場所の見分が行なわれる。
	4月12日	弥太郎らによる普請場所の見分の後、三ヶ村村役人たちが弥太郎らへ「一同打寄」、工事の取り掛かりを申し立てる。
	4月14日	伊東発身と日光奉行所支配吟味役小野善助が三ヶ村用水について相談する。伊東は、「故障」（差し障り、異議）があるため普請をしないと立場を取る。
	4月16日	弥太郎ら栗山の西川村開発のため市を出発（5月26日）。
	4月18日	三ヶ村村役人が用水路普請について「頻りに歎願」する。伊東は弥太郎不在を理由に引き取らせる。
	5月10日	平ヶ崎村世話人・千本木村村役人が用水路について申し立てる。
	5月14日	三ヶ村世話人が「早急」の普請を願い出る。
	5月17日	芹沼村村役人が12ヶ村の代表として、三ヶ村用水について「故障」があるとして、普請反対の願書を提出する（奉行所へは5月12日に提出）。
	5月18日	伊東発身と小野善助が面会する。
	6月14日	三ヶ村村役人に下流の村々が反対していることを伝える。
	6月18日	三ヶ村村役人から普請の願書が提出されるが、「故障」があるため差し戻す。
	6月25日	小野善助ら日光奉行所による普請場所の見分が行なわれる。（下流域の村々と三日三晩かけて調整を行なう）
	7月2日	調整がなされたため、三ヶ村世話人が普請を願い出る。
	7月18日	三ヶ村村役人「世話人」は、「故障」がなくなったため普請を願い出る。久保田周助は、「御用繁」のためすぐには取り掛かれないことを伝える。
	7月30日	三ヶ村村役人が普請について「頻りに申し立てる」。
	7月31日	三ヶ村から、すぐに普請に取り掛かれなければ、自力での普請と140両を借りたい旨の願書が提出される。
	8月11日	芹沼村役人と三ヶ村村役人が来る。
	8月13日	芹沼村・荊沢村村役人が証文を持参する。
	8月17日	三ヶ村村役人から拝借金の件がどうなったか問い合わせがある。弥太郎らは、先日提出された願書を取り下げた上で、「故障」が無くなれば、破畑人足を手配して工事に取り掛かる旨を伝える。
	8月20日	三ヶ村が、自力での普請をしたい旨を伝える。弥太郎らは、「勝手次第」にすべしと伝える。
	8月24日	弥太郎、富田久助は、日光奉行所へ赴く。
	8月25日	弥太郎らは小野善助との協議の結果、三ヶ村用水は「出捨」（報徳役所が全額負担）で普請を行なう方針を決める。
	8月25日	三ヶ村村役人に普請は「出捨」で行なう旨が伝えられる。
	8月27日	弥太郎らによる普請場所の再見分が行われる。
	8月27日	三ヶ村用水普請が開始される。（閏7月27日、7月22日には完工）
	8月28日	三ヶ村用水の拡張が行われる。（5月19日）野口村も含めて「四ヶ村用水」と呼ばれるようになる。

工事にかかわった人々

「三ヶ村用水」の工事には、破畑人足が62人(延べ27人)参加しました。また工事に参加した地域の人たちの内訳は次の通りです。

野口村2人(延べ14人)、和泉村29人(延べ141人)、平ヶ崎村32人(延べ156.5人)、千本木村28人(延べ147.5人)。平ヶ崎村と千本木村の参加者は、それぞれの村に住む男性(子供とお年寄りを除く)の半数以上です。水神碑に名前が刻まれている三ヶ村の「世話人」も数多く参加しています。和泉の源吾(源五右衛門)が8日、平ヶ崎の庄右衛門が9日、千本木の仙吉が12日です。いずれも各村でトップクラスの参加日数です。「三ヶ村用水」は、破畑人足だけでなく地域の人々も工事に大きくかかわっていました。

門弟たちの出欠カレンダー

主に二宮弥太郎、中村藩出身の門弟富田久助(高慶)、伊東発身、荒専八の4人が中心となり指導をしています。荒専八は、測量技術に長けていたので人足に直接技術指導をしていたと考えられます。また富田久助は8日から風邪を引いたため休みです。

7月		8月	
閏7月		閏7月	
小月		小月	
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29			

工事の工程カレンダー

「三ヶ村用水」がほぼ完成した22日には、野口村の磯兵衛の家で打ち上げが行われました。工事ににかかわった門弟・破畑人足・村人が集まり、お酒を飲みながら「三ヶ村用水」の完成を祝いました。磯兵衛には世話代が支払われました。

7月		8月	
閏7月		閏7月	
小月		小月	
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29			

※閏年(うるうどし)
太陰暦では1年を354日としているため、適当な割合で1年を13月とする年がある。月の満ち欠けに基づき、1ヶ月を29日あるいは30日としている。

人足たちの出欠カレンダー

人足の延べ人数の内訳です。9日は朝の段階で雨が降っていたため、破畑人足が休暇を願い出た認められています。また三ヶ村の村人は基本的に毎日同数の人足を出しています。18日は全体的に休みになり、破畑人足の賃金と励ますための酒代が支給されています。

7月		8月	
閏7月		閏7月	
小月		小月	
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29			

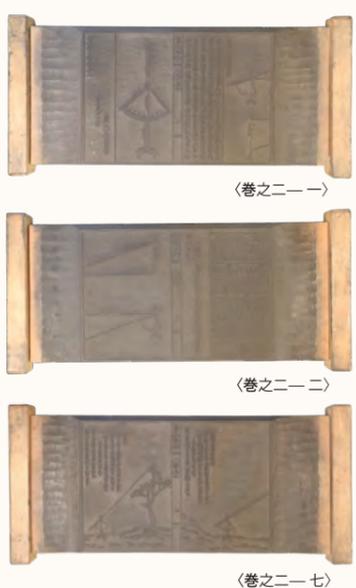
荒専八と測量技術

荒専八(至重)は、中村藩(現在の福島県相馬地方)出身で金次郎の弟子の一人です。

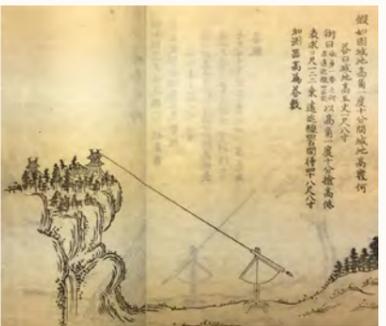
専八は、江戸で和算や測量技術を身に付け、後に測量道具の開発や測量技術書の出版を行いました。「三ヶ村用水」の工事の際には、20日のうち14日現場に立ち会い指導をしています。



↑荒専八(至重) 『荒至重先生小伝』より



↑『量地三略』版木 (南右田神社蔵 南相馬市博物館寄託)

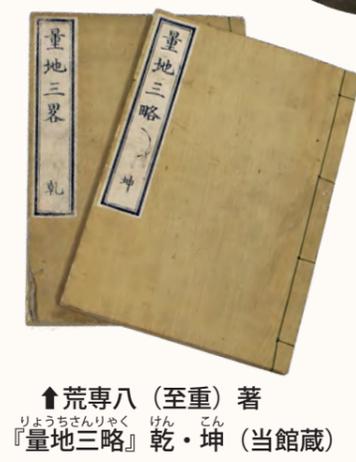


↑『量地三略』測量方法の図解部分



↑地経象限儀(左)と地平半円儀(右) (南右田神社蔵 南相馬市博物館寄託)

地経象限儀は、円を四等分にした板を地面に平行において目的地までの角度を測り、そこから距離を求める道具。地平半円儀は中央の半円の傾斜角度から、斜面の角度を測る道具。



↑荒専八(至重)著 『量地三略』乾・坤(当館蔵)



「三ヶ村用水」から板橋用水・文挾用水へ

「三ヶ村用水」ができた後

「三ヶ村用水」を流れる水は、もともと大谷川の水ですが、三ヶ村を流れて田川に合流します。田川の水が増えたことで、その下流域でも田川の水を使う板橋用水・文挾用水が
つぐられます。さらに「三ヶ村用水」
ができたことで、日光神領の人々は
金次郎らを信頼して日光神領の報徳
仕法が大きく前進しました。

日光市には多くの「二宮堀」が存

在しています。「三ヶ村用水」のように現在も使われている用水路がありますが、「二宮堀」がつくられて約160年経って、当時の様子がわからなくなっています。皆さんのお住まいの地域に「二宮堀」と呼ばれる用水路がありましたら、調べてみてはいかがでしょうか。



↑板橋用水

嘉永7年（1854）10月、土沢地内（土沢IC付近）の田川用水を取り入れ、板橋宿まで通水した用水普請。その後、安政期に改良普請を行い完成した。写真は板橋北の久保付近。



↑文挾用水

安政元年（1854）12月頃、板橋宿木戸際から文挾宿木戸下までの用水工事を開始。難工事のため何度も改良を加え、元治元年（1864）5月に完成した。写真は小代地内の隧道。

主な展示資料

	展示資料	所蔵者
1	今市小学校旧蔵文書	当館蔵
2	町谷渡辺家文書【町谷村名主文書】	当館蔵
3	『量地三略』乾・坤	当館蔵
4	唐鍬・測量用具（小方儀・象限儀・分度器径・分度矩）	今市報徳二宮神社蔵
5	『量地三略』版木（巻之二―一・二・七）・測量具（地経象限儀・地平半円儀）	南右田神社蔵／南相馬市博物館寄託

令和元年度テーマ展 知ってる？二宮堀～金次郎と地域の人々が作った用水路～

発行：日光市二宮尊徳記念館
住所：栃木県日光市今市 304 番地 1
電話：0288 (25) 7333 / FAX：0288 (25) 7334

発行日：令和元年 11 月 18 日
本書を無断で転載・複製することを禁じます。

